

自閉症スペクトラム児のコミュニケーション行動の発達

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
発達・福祉臨床クラスター
松本 結佳

Grayvee は ASD 児のコミュニケーション行動に関しては、「環境的結果事象を導く相互作用的行為」が「社会的結果事象を導く相互作用的行為」よりも多くみられると述べている、この点においても ASD 児の自他の関係の質という点から検討していく必要がある。

本研究では、ASD 児の遊び場面におけるコミュニケーション行動の発達について、自発・応答の二側面かに区別して関係の変動を把握し、発話内容について意味の深の有無に注目をし、発達的な検討を試みる。

本研究は、ASD 児 1 名を対象とし、1 年 4 ヶ月の期間にプレイセラピー場面で観察されたコミュニケーション行動と遊びを分析した。観察期間は、対象児が 3 歳 6 ヶ月から 4 歳 8 ヶ月までであり、発達的には 1 歳半頃から 2 歳半頃の発達の力をつけている時期にあった。コミュニケーション行動の分析にあたっては、自発コミュニケーションと応答コミュニケーションの 2 つの視点から分析をおこなった。その際、Wetherby & Prutting(1984)のカテゴリーに筆者が追加・修正を加えたカテゴリーを用いて、観察されたコミュニケーション行動を分類した。応答コミュニケーションに関しては、深田・倉盛・小坂・石井・横山(1999)の研究のカテゴリーに筆者が追加・修正を加えたカテゴリーを用いて分類した。コミュニケーション行動の出現状況により観察期間を発達経過にもとづき時期区分し、各時期の「想像力」の発達を遊びの分析よりおこなった。

本研究の結果から、以下のことが明らかになった。

第 1 に、1 年 4 ヶ月の観察期間は、行動の分析から 3 つの時期に区分することができた。第 1 期は道具的活動期(3 歳 6 ヶ月から 3 歳 9 ヶ月)、第 2 期は見立て遊び期(3 歳 9 ヶ月から 4 歳 3 ヶ月)、第 3 期はごっこ遊び開始期(4 歳 3 ヶ月から 4 歳 8 ヶ月)として各時期の発達的特徴を示すことができた。

第 2 に、コミュニケーション行動の質的な変化が第 2 期にみられ、この時期には他者の発話に対してそれと関連させながら意味を付与するような発話など特徴的な姿がみられはじめた時期である。つまり、同時期には、情報伝達という枠組みをこえた相互交渉の展開、いいかえると「想像力」が共有の媒体となり自分と他者との関係をつなぎコミュニケーション行動を発達させていくのではないかと考えられた。